

Botarde! Di'ak ka lae? (こんにちは、元気ですか?)



岐阜の市街地ではまだ初雪が見られないそうですが、マフラーや手袋が必須な寒さになっていると聞いています。東ティモールは相変わらず暑く、私は日焼け止め・日傘・アームカバーを三種の神器の如く愛用しています。12月に入り本格的な雨期に突入しました。毎日雨が降るわけではないですが、日に1~2回、30分から2時間ほどの雨がスコールのように降ります。すぐに川は増水し、排水溝もあふれかえるほどで、初めてその様子を見た際はびっくりしました！雨の中冠水した道路で遊ぶ子どもたちも多く、文化の違いを感じさせられた場面でした。



【ウミガメ放流イベント】

トゥクトゥクに乗り隣の県リキサヘウミガメ放流イベントに参加しに行ってきました。ティモールにもありました、トゥクトゥク！ベモの終点が県境付近のため、そのあたりから代わりの交通手段として利用できるようになっています。定額ではないので交渉次第なところもあり、思ったより遠かったからと言われ値上げされたりもしました。



環境保護団体主催のイベント

話を戻して…、東ティモールには6種類のウミガメが生息しているそうです(うち1種は幻らしいので簡単に見ることが出来るのは5種だそうです)。色んな地域で同じような放流イベントが行われています。

小さな子カメをココナッツの器に入れて、一斉に浜辺に放します。よちよちと海に向かって進む姿がとても可愛くて、思わず名前を付けて応援してしまうほどでした。まだ小さく軽いので波にさらわれてもすぐに戻ってきてしまいましたが、少し助けを加えなんとか全カメたちが海へと旅立っていきました。帰省本能があるみ

たいで大人になった際、産卵のために同じ浜に戻ってくるらしいです。たくさんのウミガメが戻ってこられるように環境維持もしていかなければいけませんね。



【クリスマス inTimor-Leste】

東ティモールではクリスマスのことを Natal(ナターール)と言います。国民の 99%がキリスト教の彼らにとって、クリスマスは特別な行事です。病院でも各病棟クリスマスツリーなどの飾り付けを行っています。各所で飾りを見ているとすべての病棟に共通してツリーと小屋みたいな藁飾りがあることに気がつきました。この小屋はイタリア語でプレゼピオと言い、馬小屋で誕生したと言われているイエスの降誕場面を再現しています。大統領府にも様々なプレゼピオが作成・展示されていました。

また 24 日は夜 19 時から 24 時頃まで教会でミサがあり、このミサを終えた人たちが海岸沿いや街中で花火を打ち上げお祭りのように騒ぎます。そして翌 25 日は午前中のミサを終えたあとは家でゆっくり過ごすのが習わしなのか、お店は軒並み休業でした。祝日開け出勤すると、同僚たちは「クリスマスおめでとう！」と声を掛け合い、握手と頬を合わせてハグを行いお祝いします。これも伝統みたいです。

日本人にとってのクリスマスは商業的なイベントとして捉えられることが多いですが、これらの飾りや過ごし方を通して本来のクリスマスの意味を学び神聖なものだと感じる事が出来ました。



人が入ることが出来るくらいの大きさのプレゼピオ



病院に飾られたツリーたち。私のお気に入り 3 選をご紹介します

余談ですが、この時期になると歳末セールも会わせてか、おもちゃを持った子どもをよく見かけました。特別におもちゃを買ってもらうことはあるようですが、『サンタクロースが24日の夜やってきて枕元にプレゼントを置いていく』という文化はないそうです。起源はキリスト教ですが、現代のイメージや文化的役割が宗教と切り離され商業化されていることが大きいからですかね？

【東ティモールの紹介⑦ プルサ】



東ティモールでの携帯電話や家庭電力はプルサと呼ばれるプリペイドカードを購入して利用します。最近では Wi-Fi や eSIM も普及してきたようですが、まだまだプルサでの利用が一般的です。プルサの裏面をコインで削ると 12 桁の番号が書いてあるのでそれを電話入力して送信すると、購入した分の料金がチャージされます。私は毎月使い放題で契約をしていますが、現地の人は1ドルのプルサを都

度購入し利用している人が多いようです。そのため同僚の携帯は度々利用が出来なくなっており、代わりに電話がかかってきたり、掛けたりということが起きます。それもコミュニケーションのうちのひとつなんですよね。プルサは商店でも購入できますが、よく道ばたに「プルサ売り」と呼ばれる男性が立っているの、私はその人から購入することが多いです。

電気も使用した分を後払いするシステムではないため、気をつけていないと急に停電になる、ということが起こりうるみたいです。たまにクーラーを利用して1ヶ月 20 ドルくらいの料金になるので、日本と比べてものすごく安い、ということはないです(私の地域と比較)。

【東ティモールの紹介⑧ 食べ物その 2】

東ティモールは一年を通して 30 度近い気温のため、私たちがいうところの「南国フルーツ」がいつでも食べられます。もちろん旬はあるのでスーパーや露店で出回る量に差はあるのですが。

本日は職場で食べたマンゴー料理をご紹介します。このマンゴーは完熟しておらず酸味が強いです。そのような酸味の強いものは砂糖、ケッチャブマニス(と呼ばれる甘いソースのような調味料)、唐辛子を混ぜて和え物として食べるそうです。伝統的な家庭料理の一つだとか。食感はシャキシャキしており、酸味もあるためまるで漬物のようです。ご飯にのせて食べてもおいしいのではと思うくらいにはおかずになると感じました。日本にもこのような料理はあるのかと聞かれましたが、そもそも日本ではマンゴーは高級フルーツで、甘いものしか基本ありません。皮が付いたままのマンゴーをスーパーで購入したことがないと話したら少し驚いていました(こちらの人は家にマンゴーがなっている人も少なくないので、別の意味で買ったことがない人も居るみたいです)。



ではまた次号でお目にかかりましょう!!
Adeus!!